

第1表 参謀組織の変遷、隣邦諸地域の動向、駐在・派遣将校の活動

- 1871 (明 4) . 4 福島九成ら9名、日清修交条規調印団派出とともに、陸海軍・外務省から清国派遣 (清国留学生としてだが、視察も目的、うち多くが翌々年6月以降、台湾・南清で密偵活動)。
 . 7 兵部省に陸軍部設置、同部に**参謀局設置** < **参謀組織の濫觴** >。海軍部も設置。
 . 12 琉球人54名、台湾原住民により殺害。
- 72 (明 5) . 2 兵部省を廃し、陸海軍2省が設置。上海領事館開設。
 . 8 北村重頼・別府晋介、花房義質の対朝鮮修交交渉に随行し、南朝鮮を偵察 (3ヶ月)。
 . 8 池上四郎・武市熊吉、変名変装して満洲偵察 (約1年)。 9月、福州領事館開設。
- 73 (明 6) . 4 樺山資紀、日清修好条規批准書交換団の随員として清国派遣 (福島九成と合流、台湾長期偵察)。
 海軍の曾根俊虎も随員派遣、後に76年2月~78年1月、79年3月~など長期清国派遣。
 . 4 陸軍参謀局を第6局に改称。 香港領事館開設。
 . 8 西郷隆盛の朝鮮派遣を廟議決定、10月に無期延期、西郷ら下野。
 . 11 美代清元ら6名、北清駐在派遣 < **参謀組織の組織的情報活動の始まり** >。 北京公使館設置。
- 74 (明 7) . 4 大里里賢ら5名、中南清駐在派遣 (北清派遣を含め11名が台湾出兵前後期に清国駐在)。
 . 5 **台湾出兵**。7月、清国が条約違反と抗議 (日清軍事衝突の可能性)、10月、大久保利通が日清互換条款調印、12月、日本軍が台湾撤兵。
 . 6 陸軍省外局として**参謀局設置**、業務拡大 (第1課総務課内の諜報提理に桂太郎、第2課は亜細亜兵制課、第5課は地区政誌課)。
- 75 (明 8) . 2 福原和勝、初代北京公使館附武官 (当初より情報活動目的) < **在外公使館附武官制の始まり** >
 . 4 福島九成、陸軍少佐のまま初代厦門領事。 5月、日露間で樺太千島交換条約調印。
 . 9 **江華島事件** (海軍の朝鮮沿岸部測量が契機)。 9月、天津領事館開設。
- 76 (明 9) . 2 益満邦介ら、黒田清隆の日朝修好条規調印に随行、7月、具体的な偵察命で活動。
- 77 (明 10) . 2~9 西南戦争。
 . 10 海津三雄、花房義質の開港場交渉に随行して偵察 < **参謀組織による朝鮮視察命の始まり** >。
- 78 (明 11) . 1 山本清固、ロシア公使館附武官 (以前より外務省書記生の名目でロシア公使館付)。
 . 10 清国、琉球問題で抗議、朝貢などの旧慣復活要求。
 . 12 **参謀本部設置** < **参謀組織の本格的確立** >、管東局 (シベリア・満洲・カムチャッカ・シベリア)・管西局 (朝鮮・支那沿海)。 翌年8月、満洲が管西局、朝鮮が管東局に管轄替え。
- 79 (明 12) . 2 海津三雄、花房義質の元山開港交渉団に随行派遣。 翌年5月、元山開港。
 . 4 **琉球処分** (琉球の廃藩置県)。 5月、清国が抗議。
 . 6 「**管理将校心得**」、「**清国派出将校兵略上偵察心得**」、「**清国派出将校心得**」を制定。
 . 7 志水直ら12名、清国駐在派遣 (任期3年、2年目に2ヶ月、3年目に4ヶ月の内地旅行)。
 . 7~8 管西局長桂太郎、福島安正ら、清国視察。翌年3月、小川又次、その再調査で清国派遣。桂局長、これらを踏まえ「**対清作戰策**」作成。
 . 12 清国語学生、北京派遣 (3年間、派遣は13名、現地採用3名)。
- 80 (明 13) . 2 海津三雄、釜山駐在派遣、朝鮮語学生10名の朝鮮派遣。
 . 3 興亜会結成 (最初のアジア主義団体、発起人は海軍の曾根俊虎ら)。
 . 3 梶山鼎介、北京公使館附武官 (第2代)。小川又次が北清、益満邦介が南清に派遣。
 . 4 菊地節蔵ら3名、ウラジオストック、コルサコフ (サハリン) 派遣、満洲語学生5名も派遣。
 . 4 ソウル公使館設置。
 . 7 「**清国朝鮮等駐在将校地理実査心得書規定**」を制定。
 . 10 『**隣邦兵備略**』刊行 (福島安正が編纂、82年に第2版)。 11月、山県有朋、「**進隣邦兵備略表**」を付して天皇に上奏。
 . 11 堀本礼蔵、ソウル駐在派遣 < **ソウル・釜山駐在と語学生派遣で朝鮮偵察体制の確立** >。
- 81 (明 14) . 3 三浦自孝ら4名、清国駐在派遣。

- 82 (明 15) . 3 堀本礼蔵、朝鮮軍の別枝隊の教練師に雇用。
 . 7 **壬午事変**。磯林真三・福島安正らのソウル急派、管東局長堀江芳介ら、派遣軍に随行。8月、清国軍が朝鮮馬山到着、大院君を天津に連行。濟物浦条約、日朝修好条規統約(3開港地の範囲拡大、**朝鮮内地旅行の条件付可能化**)の締結。
 . 7 神尾光臣ら6名、清国駐在派遣。
 .10 磯林真三、初代ソウル公使館附武官。渡辺述、釜山に駐在派遣。
- 83 (明 16) . 1 倉辻明俊、満洲派遣(翌年2月、変名変装で逮捕、8月、参謀本部で変名改装禁止を確認?)。
 . 6 福島安正、北京公使館付(重要な清国機密文書入手)。
 . 6 **清仏戦争**(~翌年6月)。7月、小泉正保ら安南派遣、磯野節が清国派遣。
 . 8 栗栖亮ら2名、清国駐在派遣、管西局長磯野節、清国短期派遣。
 . 8 酒匂景信、満洲駐在派遣(**広開土王碑の拓本入手**)、帰途に朝鮮入りを申請するが参謀本部は拒否。
 .11 東次郎、初代芝罘領事(清国での革命支援を計画)。
 .12 「隣邦地区編製条規」の制定、「清国駐劄将校派遣ノ方法併ニ其担任例規」の改訂、清国駐在将校数が12名から16名に増員<**清国派遣体制の再編**>。
- 84 (明 17) . 1 小沢豁郎、福州駐在派遣。11月、小沢は福州組・清国秘密結社とともに拳兵を計画、中止。
 . 4 牛莊駐在の倉辻明俊、変名変装で満洲偵察中に清国官憲に逮捕。
 .12 **甲申政変**。旅行中の磯林真三が殺害、清国兵が鎮圧、日清両国軍の朝鮮上陸。翌年1月、漢城条約調印、4月、天津条約調印、同全権団に福島安正ら随行、7月、日清両軍が朝鮮撤退。
- 85 (明 18) . 4 英国、朝鮮巨文島を一時占拠。
 . 6 鈴木信ら5名、清国駐在派遣。
 . 7 参謀本部の管東・管西両局を廃止し、第1、2局設置。第2局第1課は「外国兵制地理政誌」。
 . 8 三浦自孝、ソウル公使館附武官(第2代)。小田新太郎、鎮江駐在中に病死。
 .12 町田実一、初代漢口領事(荒尾の活動を支援)。
- 86 (明 19) . 1 英国、ビルマをインド帝国に併合。3~9月、福島安正ら、インド派遣。
 . 1 荒尾義行(精)、漢口駐在派遣<「漢口楽善堂」で**民間人を多用しての新方式の偵察活動**>。
 . 2 「清国駐劄将校派遣ノ方法並ニ其担任例規」の再改訂(**定規旅行で地図・地誌などの調製**)。
 . 3 陸海の統一軍令機関となり、参謀本部に陸軍部・海軍部設置。
 . 4 海津三雄・三浦自孝・岡泰郷の測図重視の朝鮮内地視察旅行、翌春に柄田鑑次郎も(第3回)。
- 87 (明 20) .11 『支那地誌』総体部(巻1~6)、翌年11月、『**朝鮮地誌略**』(非公刊)、翌々年10月、『満洲地誌』(同巻15上)、93年12月、『西伯利亚地誌』、94年1月、『蒙古地誌』(巻15下)の公刊。
- 88 (明 21) . 4 柴五郎、北京滞在を終えて満洲視察から朝鮮入国を申請したが、参謀本部は拒否。
 . 5 参謀本部測量局から陸地測量部設置、その他の参謀本部経費縮減で、**清国駐在将校数の減員**。
- 89 (明 22) . 3 参謀組織は陸軍が参謀本部、海軍が海軍参謀部に替わる。
- 90 (明 23) . 9 荒尾義行、上海で**日清貿易研究所設立**(商業教育と戦時通訳養成の役割)。
- 92 (明 25) . 2 福島安正、ベルリン公使館附武官を終えて単騎シベリア横断旅行(~翌年6月、鉄道調査)。
 . 5 参謀本部次長川上操六、清国・朝鮮視察(対清戦争には勝利すると語る)。
- 93 (明 26) . 5 海軍軍令部の設置。
 . 6 「**清国二十万分一図**」の製版開始(多くは翌年製版、84年創製が多いが後に修正)
 . 8 釜山総領事室田義文、京釜鉄道敷設予定コースを測量(スミソニアン博物館関係と喧伝)。
 . 9 倉辻明俊、朝鮮・満洲の長期視察旅行<随行の**測量専門家による外邦測量の初め**>
- 94 (明 27) . 4 渡辺鉄太郎、朝鮮内地視察旅行(倉辻、渡辺の偵察旅行で開戦準備)。
 . 5 朝鮮で東学党が全州占領。伊知地幸介、その調査で朝鮮派遣。
 . 6 清国が日本に朝鮮出兵通告、日本も清国に出兵通告、清国軍が牙山、日本軍が仁川に上陸。日本が朝鮮内政の共同改革を清国に提議、清国拒否、7月、豊島沖で日清軍艦の戦闘開始。
 . 7 日英両国、通商航海条約調印。
 . 8 清国に宣戦布告。
- 95 (明 28) . 4 日清講和条約調印。独露仏の三国干渉。